

日本製鋼所と東北大学の折茂慎一准教授、池田一貴助教らは、マッチ箱ほどの小型水素貯蔵タンクを開発した。水素をアルミ水素化物としてためる交換型のタンクで、代表的な水素吸蔵

燃料電池用 貯蔵タンク

合金より水素を約四割多く取り出せる。燃料電池と組み合わせてノートパソコンなどの携帯機器に使える電池を目指す。

開発したタンクは、幅四センチ、長さ六センチ、厚さ五・五ミリのアルミ容器にアルミ水素化物の微粒子を詰め込ん

マッチ箱サイズに水素9リットル

だ構造。このアルミ水素化物は日本製鋼と東北大が合力で開発した独自の技術を開発した。早くも三年

成技術を開発した。早くも三年。日本製鋼は、携帯機器用の水素貯蔵材料。セ氏八十度以上で水素ガスを放出する。実験では九・三リットルの水素ガスを取り出すことに成功。代表的な水素吸蔵合金

東北大と
日本製鋼所

携帯機器利用めざす

でき、九十リットル
ク一本で六百五十
キロ走行できる計

のランタン・ニッケル・水素より約四三%多く出せる。アルミ水素化物をさらだ。現在、エレクトロニクス

に改良して、携帯機器の放熱を利用できる六十度で水素を出せるようにする。アルミ水素化物は一度水素をはき出すとアルミにな

り元に戻せないため、実用や水素吸蔵合金、高圧タンク